

## 八ヶ岳 天狗尾根から真教寺尾根

- ◎日程 2016年9月3日
- ◎行先 八ヶ岳 天狗尾根
- ◎メンバー Fuji (L)、Fuka
- ◎報告 Fuka

今年の夏は、自分の用事や、天候の理由などで、3か月間まったく山登りに行けませんでした。あー残念、夏山シーズンも終わってしまう。そんな時に「どうだ9月に前穂の北尾根やるけど、来ないか？」と、Fujiさんに誘っていただいた。いつも絶好のタイミングで声をかけていただき、ありがとうございます。ということで、当初は前穂北尾根、1泊2日の予定でした。

しかし運悪く、台風12号がじわじわと西から接近。台風が前線を刺激し、穂高（松本）の天気は、土曜日は晴れ間もありそうですが、日曜日は雨60%の予報。うーん、条件悪いです。

さてこうして、前日の朝7時、リーダーFujiさんから「残念ですが、穂高は2日目か雨になりそうなので中止します。」との連絡。やはり登山は天気が第一。中止になって安心しました。またしてもチャンスがお流れになりましたが、土曜日はまだ天気はもつようですし、日帰りでどこか登りに行きたいなあ、という気持ちが膨らみました。直前の急なFujiさんへの相談で、狙いを定めたのが、八ヶ岳の東側のバリエーションルート「天狗尾根」でした。標高差約1500m、登り5~6時間。下りは「真教寺尾根」で3時間40分。かなりハードになりそうな日帰りプランに、久しぶりに気合いを入れて臨みました。

### 9月2日(金)

夜9時にいつも通り、西八王子駅前でもFujiさんの車に乗せていただきました。翌朝は早起ししなければならないので、頑張っって夜のうちに、登山口そばの「美し森駐車場」まで入りました。到着は夜0時、肌寒い。他に車は3台ほどと少ないですが、みんな就寝中の様子です。我々は暗闇の中で、テキパキとテントを設営しました。軽くお酒を開けて一息ついて、明日の装備を確認しザックに詰めなおしました。

夜更かしする余裕はなく、そそくさと寝袋に入りました。

### 9月3日(土)

朝4:30に腕時計のアラームで起床しました。3時間しか寝ていないので、さすがに眠いです。空が明るくなり始めており天気は良さそうです。テント内で簡単に朝食をすませて、5:50出発。まず出合小屋を目指して地獄谷本谷の川沿いに歩きます。目印のテープやペイントを頼りに、川を何度も渡渉し、右岸と左岸を行ったり来たりしながら

遡上していきます。2 時間ほどで出合小屋に到着しました。ここで会った男女二人が、天狗尾根で出会った唯一の登山者でした。バリエーションルートはやはり登山者が少ないです。ところで出合小屋のトイレはあまりに原始的で驚かされました。二枚のトタン板を合わせただけの三角形の空間で、入口が毛布なのです。強い臭いが充満していました。小屋の部屋自体は適度な広さで清潔そうですが、トイレは覚悟が必要でしょう。

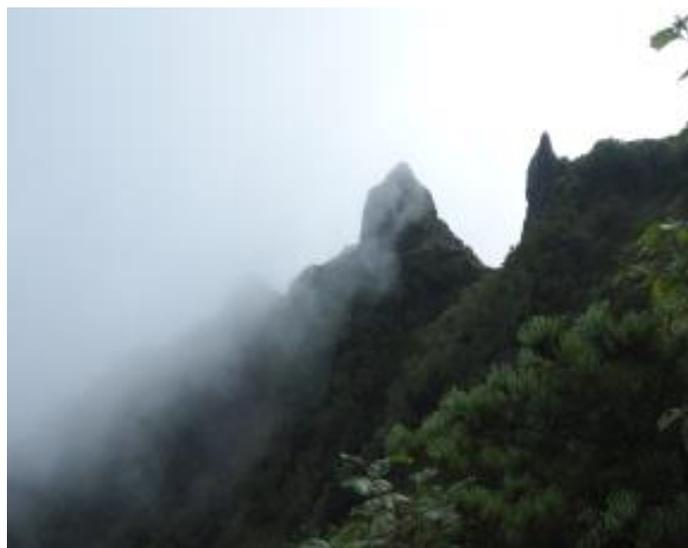
出合小屋を出発し5分ほどで赤岳沢出合（天狗尾根の末端、地獄谷本谷と赤岳沢の合流点）に出ました。しばらく右手側の赤岳沢を進み、頃合を見計らって左手の天狗尾根に取り付き、急登になりました。

樹林帯を進むこと1時間、巨大なイボイボ状の露出した岩があり、左側を巻いて通過。さらに1時間半ほど樹林の急登を登ると「カニのハサミ」と呼ばれる、まさに名前の通りの形をした岩峰が現れました。

ダイナミックな奇岩を見上げながら、左側を巻いて通過しました。その先も、岩が立ちだかるたびに、直登できるのか、それとも右か左を巻くのか、ルートがわかりにくく、うろうろ探し回らなくてはなりません。そしてついに最大の岩峰「大天狗」が現れました。目の前はかなり急傾斜の岩壁です。ずいぶん高い位置にハーケンが見えますが、そこまで登れるか心配です。左側は、はるか下まで切れ落ちていて、絶対に落ちられません。弱気になった私は正直に「ここは自信ありません」とFujiさんに伝え、巻くルートを探すことになりました。近くには通れそうなルートは見当たらないため、来た道を少し下って、改めてルートを探ること10分。右側のヤブの先に、気をつければトラバースして抜けられるかもしれない箇所を発見しました。



(←「カニのハサミ」名前通りの形の岩峰)



(↑ 大天狗 (中央)、小天狗 (右))

本当に先に抜けられるのか不安ですが、他に道がなければ、行くしかありません。さすがバリエーションルート、ここが今回の最大の難所でした。

ヤブをくぐり抜け、足元のもろい急斜面を注意深く水平に横切り、狭い岩と岩の間の急傾斜を這い上り、最後は深いハイマツ地獄で大格闘した末、ようやく大天狗を迂回したのでした。大天狗を越えたあとは、難しい箇所はありませんでした。続く小天狗は左側から巻いて、ついに天狗尾根を登りきり、主稜線に出ました。

やはり一般登山道は安心感が違います。Fujiさんと二人で、しばし達成感を味わいました。

岩だらけの主稜線を30分登ると、真教寺尾根分岐に出ました。あとほんの少し登れば赤岳ですが、欲張らずに下山します。雲の切れ間から姿を現した阿弥陀岳に別れの挨拶をして下降開始です。真教寺尾根は鎖の連続で、気が抜けません。「天狗尾根が見えているよ」とFujiさんが指す方を見ると、岩の突き出した険しい稜線があり、大天狗、小天狗が横から見えていました。自分たちはあのギザギザをよく登りきったなあ、と思ったのでした。

下り始めてから、Fujiさんの足に痛みが出てきました。気の毒で、早く下山させてあげたいけれど、真教寺尾根はとても長かったです。そして標高がなかなか下がりません。3時間後の5時の時点で、扇山2356mでした。駐車場まで、まだ800mも下らなくてはなりません。痛みはひどくなる一方で、辛そうです。途中から、清里ハイランドパークの観光リフトで下りたいと思いましたが、リフト営業時間が終了しており、残念ながら乗車は叶いませんでした。6時に日が暮れて、ヘッドライトを点け歩きました。そして8時すぎに駐車場に到着しました。痛みを耐えながら長時間歩き、Fujiさんの心身に過大な負担をかけてしまいました。今回、コース負荷の大きさや睡眠時間の不足など、パートナーへの配慮に欠けたプランニングだったことを反省しました。

今回は無理のないプランニングで、また一緒に登れたら嬉しいです。ありがとうございました。

《記録》 登り7時間40分。下り6時間10分

5:50 美し森駐車場を出発—7:55 出合小屋—8:15 赤岳沢の分岐—10:45 カニのハサミ—13:30 主尾根—14:00 真教寺尾根分岐—16:55 扇山2356m—17:12 牛首山2280m—20:10 美し森駐車場に帰着